

「有料老人ホーム事例発表研修会」
2026年3月11日（水）



生活ケアにおける 皮膚トラブル撲滅大作戦 ～安全で快適な生活を支えるために～

ライフケアガーデン湘南
「サステナブルスキンケア」

○須田まゆみ（看護師） 須藤 友之（介護福祉士）
山本 秀夫（介護福祉士） 本多 稔（認定理学療法士）
佐藤 優子（看護師） 佐藤 雅美（看護師）
赤嶺由美（ケアマネージャー）





神奈川県

【施設紹介】



介護付有料老人ホーム

ライフケアガーデン湘南

開設：2006年(H18)4月

特定施設：79室82名

短期入所：8室8名

通所介護：15名/日(地域密着型)



【施設理念】

ライフケアガーデン湘南は、
この温暖な湘南の地で、
入居者ご家族が心豊かな人生を
送ることができるような
生活環境を提供します。

医療グループが支える、ご入居者のご家族の安心。



【テーマ選定】

◎ : 5点 ○ : 3点 △ : 1点

R7年1月
担当：メンバー全員 *
作成：佐藤

問題	評価項目	重要度	緊急度	実現性	施設方針	総合得点
安全		◎	◎	○	◎	18
排泄		◎	○	○	○	14
食事		○	◎	△	○	12
レクリエーション		○	○	△	○	10
入浴		○	△	△	○	8

施設目標の中に「安全」が含まれており、これは**全職員が共通の意識を持つべき重要項目**と考えます。高齢者施設では、転倒やインシデントのリスクが常に存在します。安全確保が不可欠。他の生活ケア項目も安全な環境があつてこそ効果的に行える。以上の理由から安全をテーマとして選定。

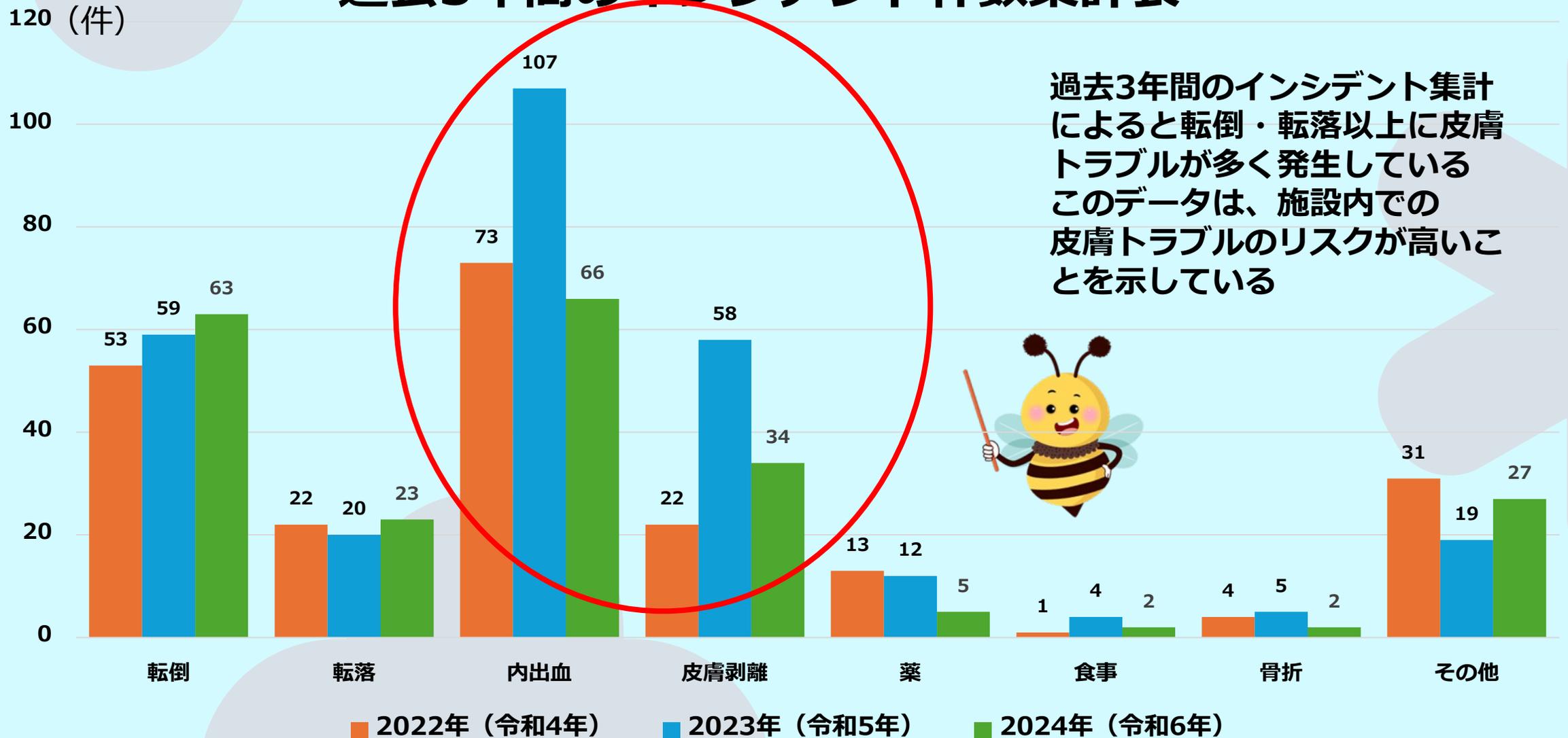


安全・経営・親身な対応

【テーマ選定の背景】

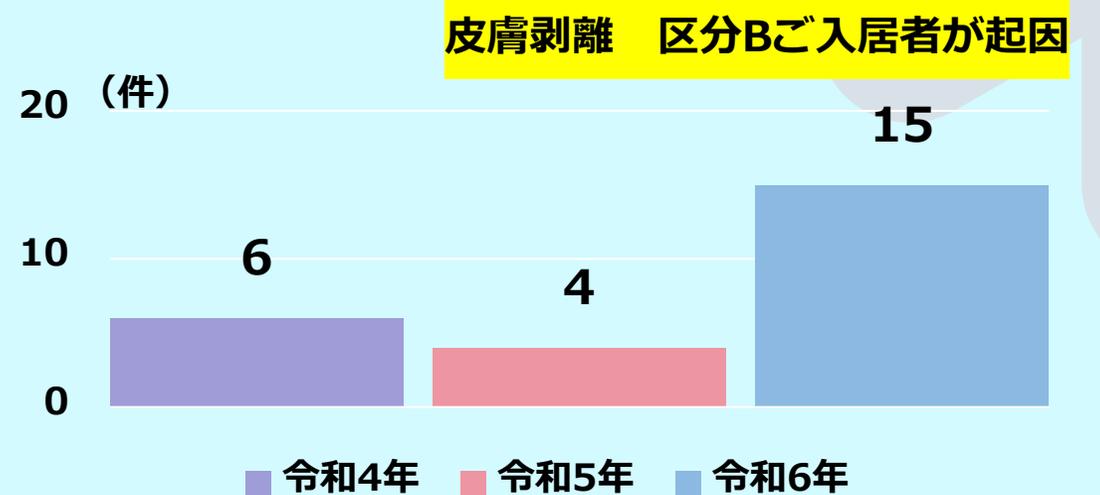
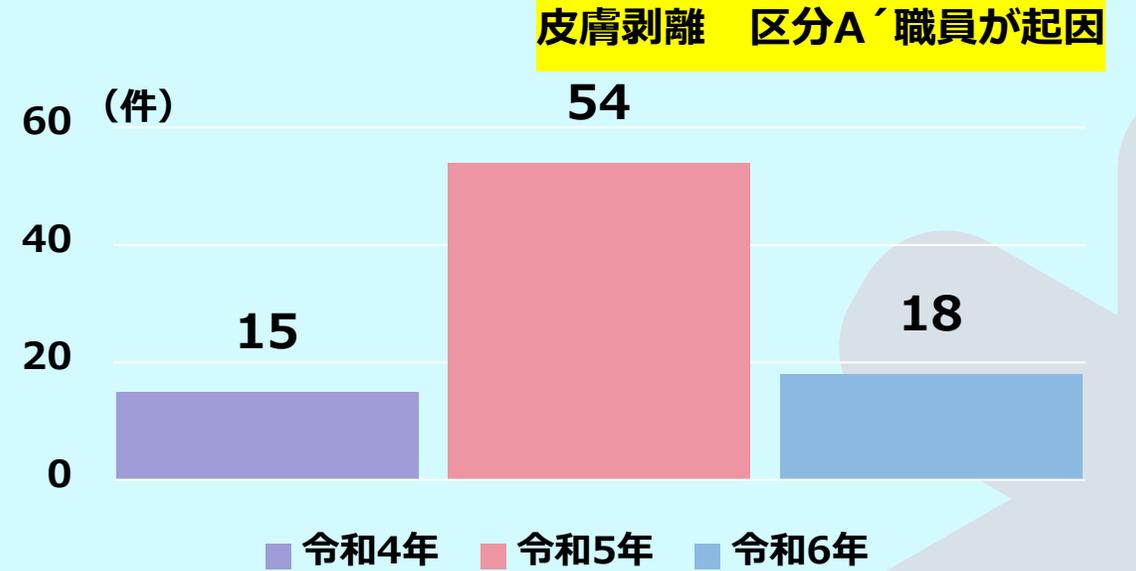
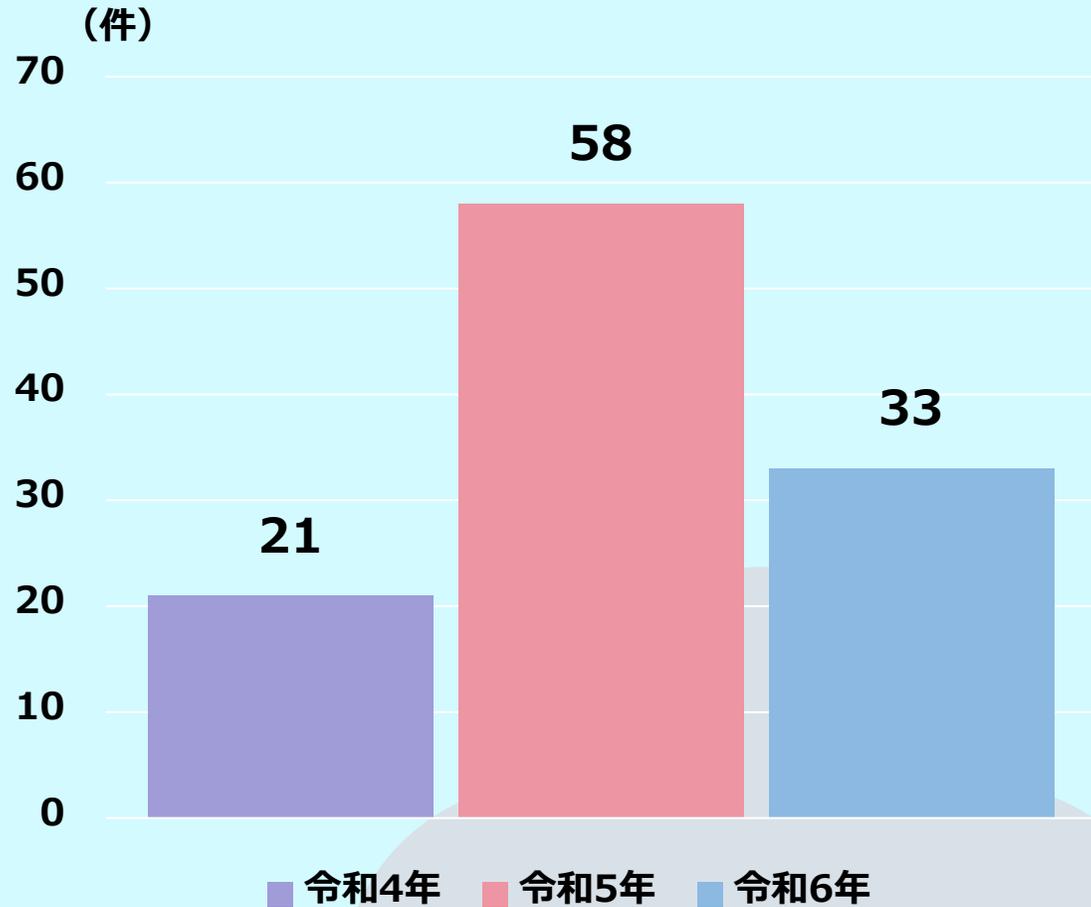
R7年1月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

過去3年間のインシデント件数集計表

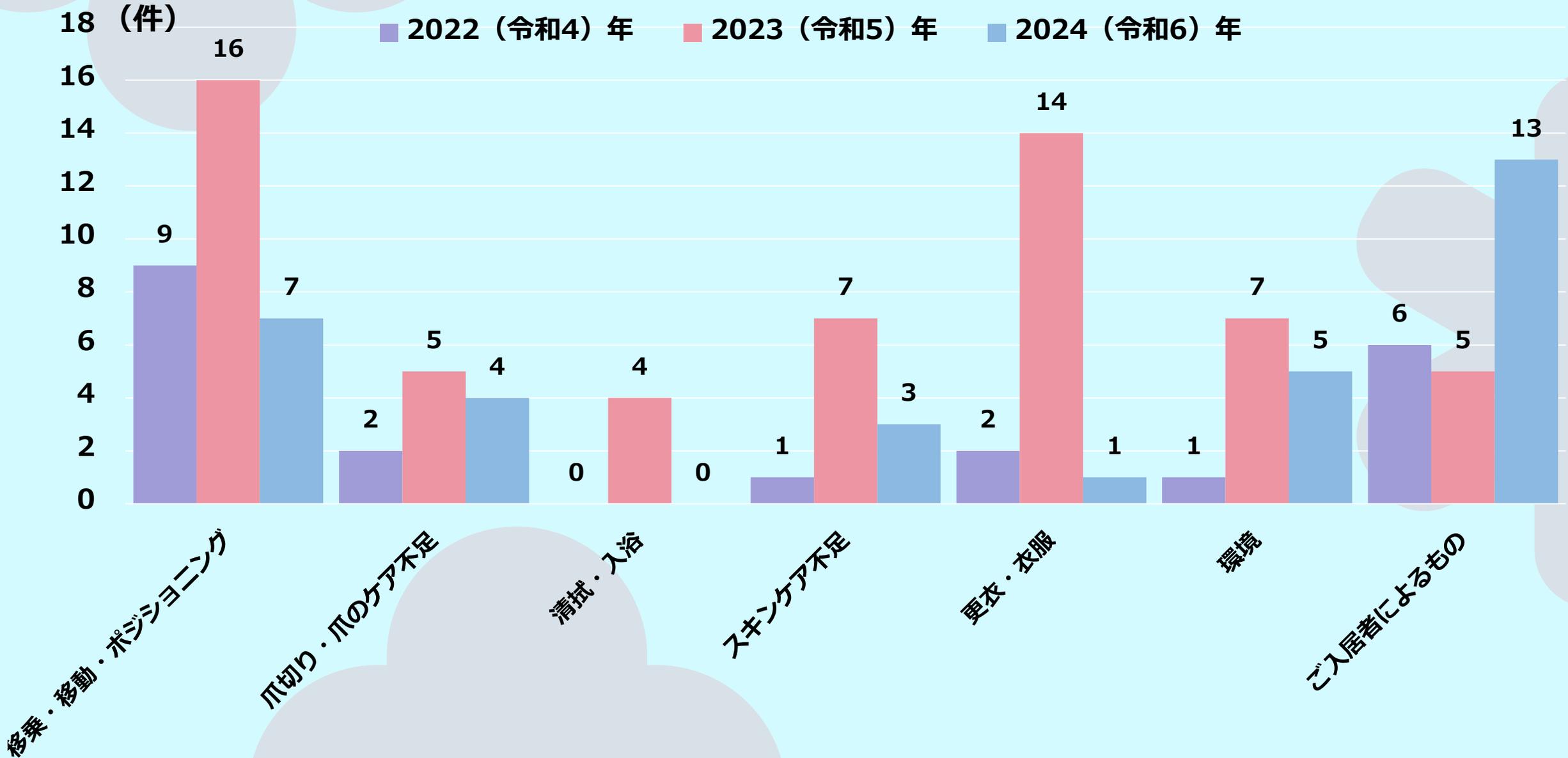


【現状把握①】 過去3年間の皮膚剥離件数を確認*

皮膚剥離件数

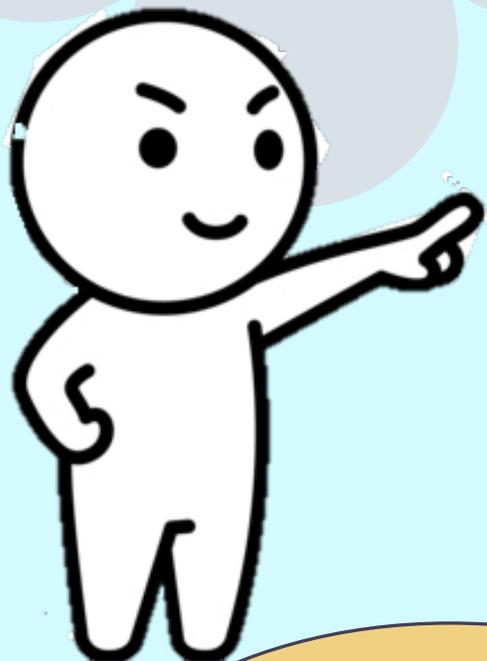


【現状把握②】 過去3年間の皮膚剥離要因を確認



【目標設定】

R7年1月
担当：メンバー全員
作成：佐藤



令和7年
12月までに

生活ケアに
おける
皮膚トラブル
件数を

昨年度より20%
減少させ
職員が起因の
皮膚剥離を1件
以下にする



目標の根拠

過去のデータ分析（過去3年間の件数）

2022年：94件

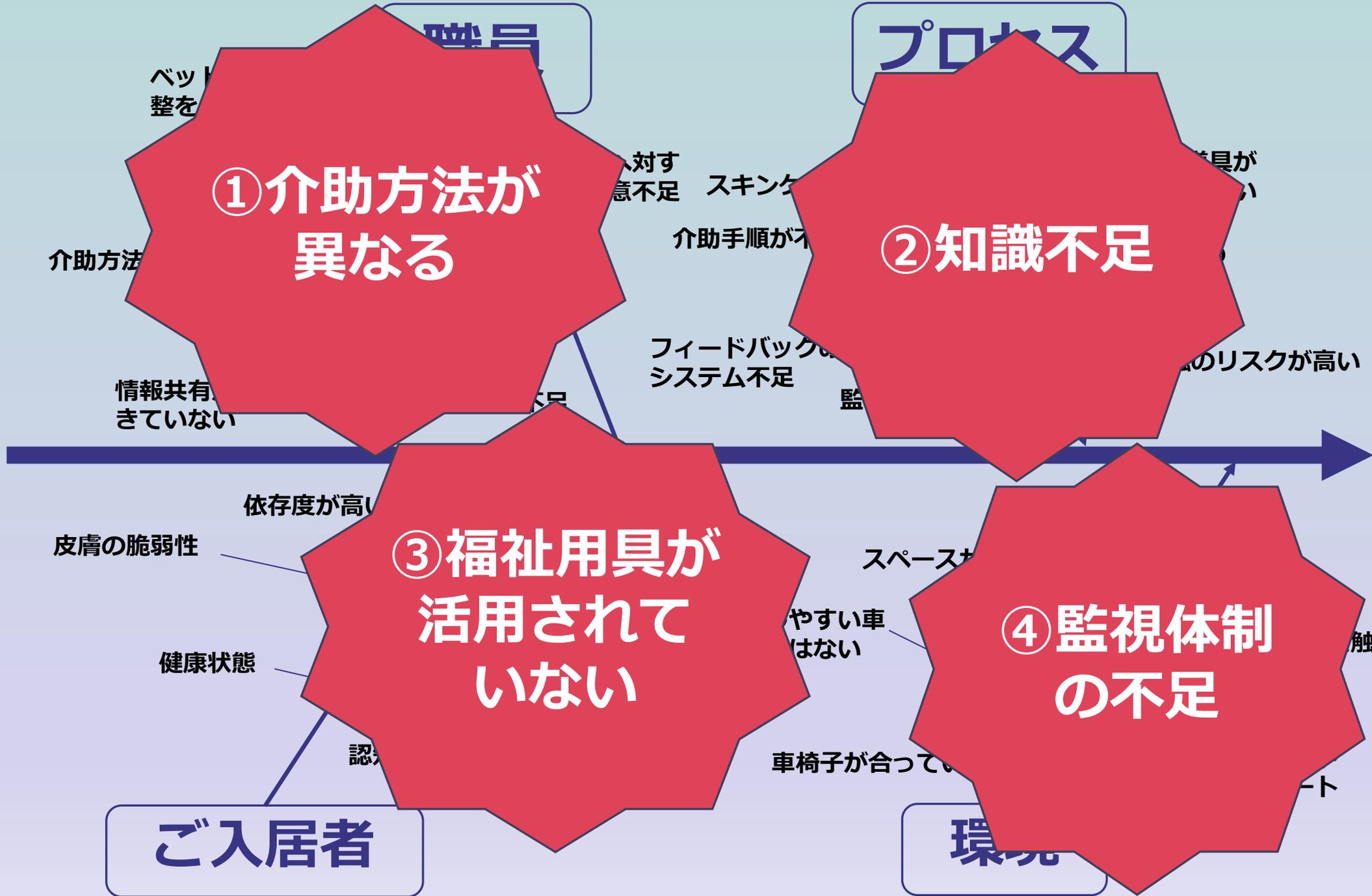
2023年：166件（急増）

2024年：99件（職員が起因の皮膚剥離18件）

2023年に急増した理由を分析し、介助方法や職員の教育、啓蒙活動を通じて職員が一丸となって取り組む環境を整えた。

これらの活動により昨年は皮膚トラブル件数を約40%減少させることができた。

さらなる取り組みを強化する事で、昨年度の件数より20%減少と皮膚剥離件数の目標が現実的であると考えた。



皮膚剥離が発生する

【要因の検証】

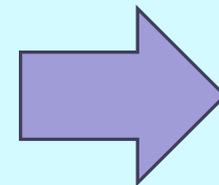
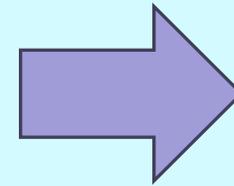
R7年1月
担当：メンバー全員
作成：佐藤

要因①：介助方法が異なる

介助方法が標準化されていないため各職員が異なる方法で介助を行っている

要因②：知識不足

移乗方法の確認テストを介護職30名に実施した結果、正解率が50%以下であった



介護職員全員に個別に
移乗方法の確認を行った
結果、方法にばらつき
が見られ、標準化されてい
ない



の

マニュアル更新
活用していない事が
わかった



の

介護職員の知識不足
結果：正解率が50%以下
基本が重要事項がわか
らない



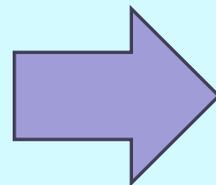
【要因の検証】

R7年1月
担当：メンバー全員
作成：佐藤



要因③：福祉用具が活用されていない

皮膚トラブルを減らすためにスライディンググローブを支給されたが、常に持ち歩いている

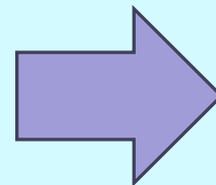


スライディンググローブの携帯率は42名中11%



要因④：監視体制の不足

ご入居者の状態を定期的にチェックする体制が確立しておらず早期問題を発見できていない



爪による皮膚剥離の発生数が11件



【対策の立案】

R7年1月
担当：メンバー全員
作成：佐藤

皮膚トラブル

一次手段

移乗実技の確認

動画作成

健康観察チェックシート
の作成と情報共有

スライディンググローブ
の携帯率を上げる

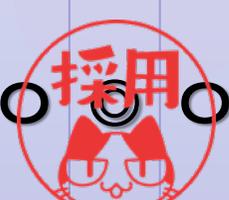
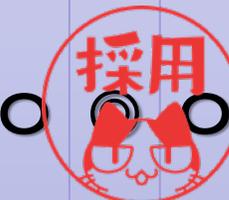
二次手段

マニュアルの見直し

いつでも動画で確認
できるようにする

定期的な健康観察
チェックの実施

スライディングシートの
活用と使用方法の確認

重要要因	効果	実現性	重要度	持続性	経済性
介助方法が異なる	○	○ 	○	○	○
知識不足	○	○ 	○	○	○
監視体制の不足	◎	○ 	○	○	○
福祉用具が活用されていない	○	○ 	○	○	△

【対策の実施①】

介助方法の統一

R7年2月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

介助手順（移乗方法の実技）の確認

1) 介護職員34名に実技テストを実施 ベッドから車椅子・車椅子からベッドへ 看護師がチェック表を用いて確認

名前： _____ 月 _____ 日 チェック者： _____	名前： _____ 月 _____ 日 チェック者： _____
ベッドから車椅子への移乗介助	車椅子からベッドへの移乗介助
<input type="checkbox"/> 車椅子をベッドに対して30度の角度で、できる限り近づける	<input type="checkbox"/> ベッドと車椅子の高さを同じに調整する
<input type="checkbox"/> 車椅子を設置した際にフットレストが上がっている	<input type="checkbox"/> 車椅子をできる限りベッドに近づける30度の角度で
<input type="checkbox"/> フットサポート、レッグサポートを外す	<input type="checkbox"/> フットレストがあがっているか、フットサポート、レッグサポートを外す
<input type="checkbox"/> アームサポートが上がっているか	<input type="checkbox"/> アームサポートとサイドガードが上がっているか
<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> ベッドを車椅子と同じ高さに調整する	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> ご入居者にベッドに近く腰かけてもらう	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> ご入居者の頭が引けているか	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> ご入居者の足の裏をしっかりと地面につける	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> ご入居者の膝がつま先より前に出過ぎているか	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> 肩甲骨(車椅子側)と背盤(その反対側)を支えて密着する	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> 介護者は腰を落とし、ご入居者を前かがみの姿勢にする	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> ご入居者の体を前方へ傾け、お尻の高さを保ったまま回転させて移乗する	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか	<input type="checkbox"/> 車椅子のブレーキがかかっているか
移乗介助の5つの注意点について	無理なく安全に移乗するための「ボディメカニクス」8原則
<ul style="list-style-type: none"> 1. 軸折れによる転落に注意する 2. すり落ちに注意する 3. 皮膚剥離に注意する 4. スポンの食い込みに注意する 5. 腰痛に注意する(介護者) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 支持基底面積を広くとる 2. 重心を低くする 3. 重心をご入居者に近づける 4. ご入居者の体を小さくまとめる 5. 体全体を使う 6. 体をねじらない 7. 水平に移動させる 8. この原理を活用する



2) 結果を伝え アドバイスする



3) 終了後にボディメカニクスの 用紙を渡す

ボディメカニクスの原理

少しの力で大きな力を発揮できる介護者で、利用者や介護者の負担軽減につながります。

1. 支持基底面積を広くとる **2. 重心を低くする**

足を開き、肩幅より広い足元の面積を広げ、その中に重心をおくようにすると安定します。

足を深く開き、腰を落とすと、重心が低く安定します。

3. 利用者にできる限り近づける **4. 体をねじらず脚と膝を平行に保つ**

利用者に近づけることで重心が低くなり、より安全に介護ができます。

体をねじった状態で力をかけると不安定になり、腰の負担にもなります。肩と腰の向きが同じになるように心がけます。

5. 大きな面積を使う **6. 利用者を小さくまとめる**

手や腕だけでなく、肩、背中、足など大きな面積を同時に使うと、大きな力を発揮できます。

利用者の体を小さくまとめると、ベッドなどの摩擦も少なくなって、介助しやすくなります。

7. 水平移動を行う **8. テコの原理を応用する**

利用者を床から上げて水平に移動すると、自力に頼らずにスムーズに介助できます。

肘や膝、肩などを支点にして、テコの原理を利用すると、小さな力で介助できます。

9. コマの原理を応用する

肩などを支点にして体を回転させることで、小さな力で介助できます。

【対策の実施②】

介助方法の統一

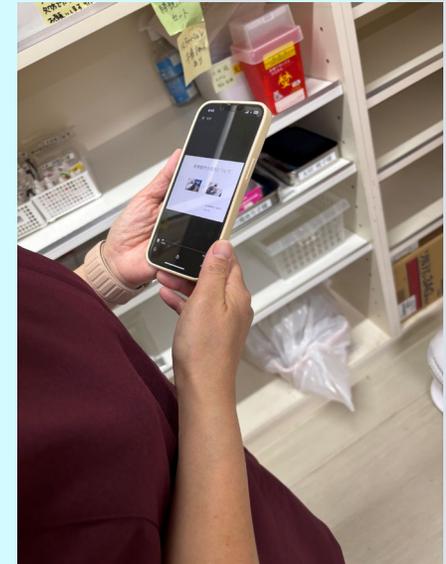
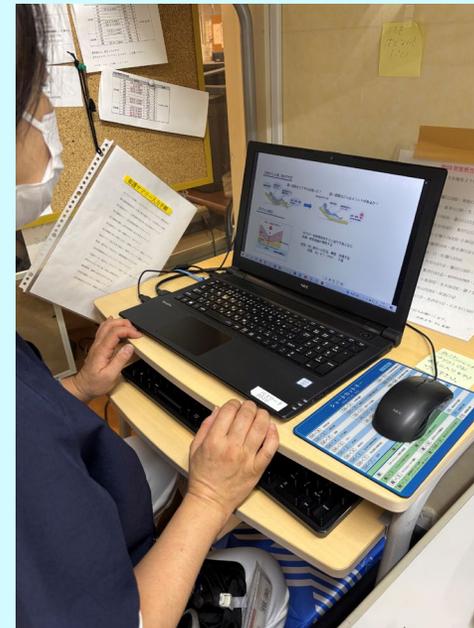
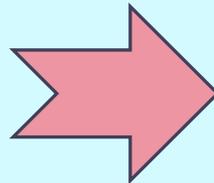
R7年2月～12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

移乗・移動・ポジショニング方法についてのビデオを作成。いつでも視聴確認できるようにした

移乗動作介助法について



認定理学療法士（脳卒中）
本多 稔



日頃の気づきが大切

悪い姿勢をどうすれば良いか？ 良い姿勢はどんなメリットがあるか？

床ずれの原因

外力が一定時間持続すると血行不良となり皮膚・軟部組織が壊死する

原因 | 同じ部位への圧迫、摩擦、栄養不足
浮腫、むいそう（やせ）、不潔

【対策の実施③】

介助方法の統一

R7年2月～5月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

移乗・移動方法についてのマニュアルの見直し



基本介護指導マニュアル

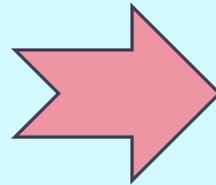
移乗・移動・体位変換介助編

ライフケアガーデン湘南

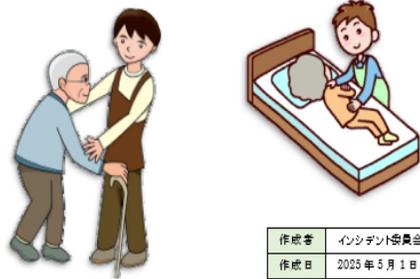
12年前の物

H27/08

【移乗・移動・体位変換】



移乗・移動・体位変換 介助マニュアル



作成者	インシデント委員会
作成日	2025年5月1日
最終更新日	2025年5月5日

移乗・移動・体位変換 介助マニュアル

目次

- 1. はじめに
 - 1-1 マニュアルの目的.....2
 - 1-2 対象者.....2
 - 1-3 使用方法.....2
- 2. 高齢者の移乗・移動についての基本知識
 - 2-1 高齢者の身体能力の理解.....2, 3
 - 2-2 移乗・移動・体位変換の重要性.....4
 - 2-3 介助の基本姿勢.....4
 - 2-4 安全対策の理解.....5
- 3. 移乗の基本技術
 - 3-1 移乗の姿勢.....6
 - 3-2 移乗の手順.....6
 - 3-3 ベッド⇄車椅子(一部介助).....6
 - 3-4 ベッド⇄車椅子(全介助).....7
- 4. 移動の基本技術
 - 4-1 移動の定義.....8
 - 4-2 移動の手順(留意点).....8
 - 4-3 車椅子の操作(留意点).....8
 - 4-4 歩行器の操作(歩行器の種類と操作方法).....9
- 5. 体位変換の基本技術
 - 5-1 体位変換の定義と目的.....10
 - 5-2 体位変換の手順と注意点.....11
 - 5-3 ポジショニングについて.....12
 - 5-4 車椅子(車椅子)の移動.....12
 - 5-5 車椅子(車椅子)の移動(車椅子).....12
 - 5-6 車椅子(車椅子)の移動(車椅子).....13
 - 5-7 ポジショニング後の対応.....13

1 ライフケアガーデン湘南 



【対策の実施④】

知識の向上

R7年2月～5月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *

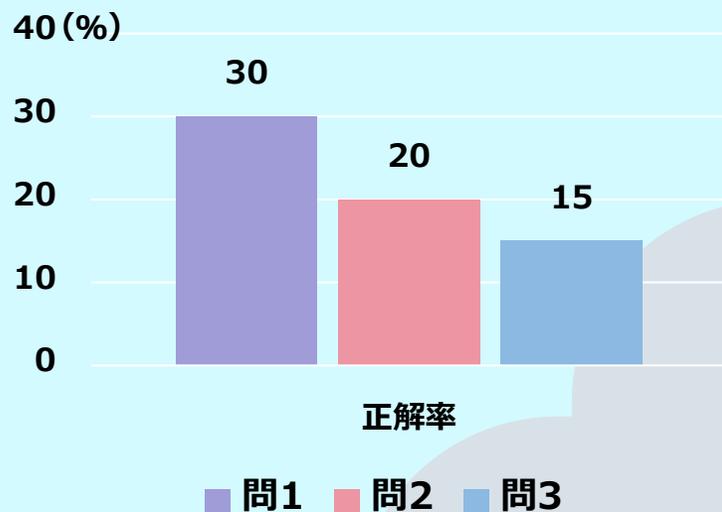
移乗についての確認再テストを実施

- 1、移動移乗の基本的な考え方について
- 2、車椅子からベッドへの移乗介助について
- 3、ベッドから車椅子への移乗介助について

〇×形式で回答

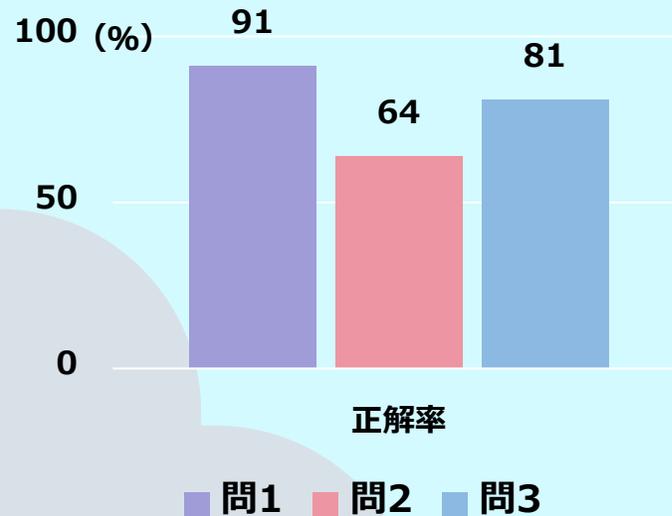
2024年6月に実施した結果
(介護職30名)

移乗確認テスト



2025年3月に実施した結果
(介護職35名)

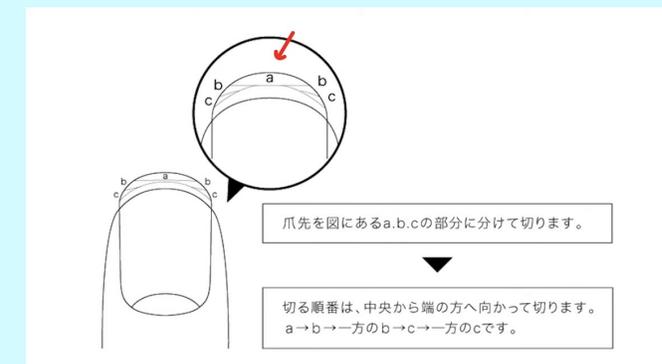
移乗確認テスト



「正しい爪の切り方」 ビデオ視聴



介護・看護職員45名
ビデオの視聴率は100%



【対策の実施⑤】

福祉用具の活用

R7年2月～12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *



スライディンググローブ



スライディングシート



スライディンググローブが
携帯しやすいように
ポーチを活用！！

スライディンググローブの
携帯率は4月の調査で40名中
37名で92.5%の携帯率となった



スライディンググローブ①



スライディンググローブ②

スライディンググローブの
活用方法を動画にした
視聴型勉強会を再視聴

【対策の実施⑥】

監視体制作り

R7年2月～12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

1、確認日：毎月1日と15日に設定



2、スプレッドシートの活用

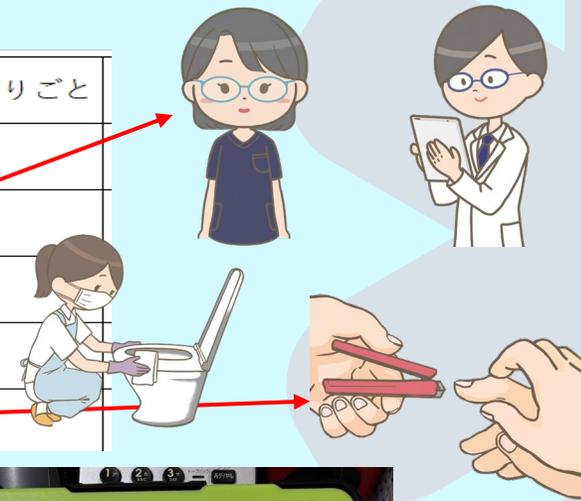
- ① 確認結果をスプレッドシートに記入し対応が必要な項目を可視化
- ② 対応職員が各項目を確認可能

居室内環境	爪（手）	爪（足）	皮膚の状態	困りごと
			乾燥	
トイレ×				
		×		

3、具体的な対応例

- ① 爪が伸びている場合⇒居室担当の介護士・看護師が次回の確認日までに爪を切る
- ② 皮膚乾燥⇒次回の確認日までに必要なら軟膏の処方を受け対応する

居室内環境	爪（手）	爪（足）	皮膚の状態	困りごと
			乾燥	
トイレ×				
		×		



- ### 4、情報の共有
- スプレッドシートに記録する事で職員間の情報の共有を図る

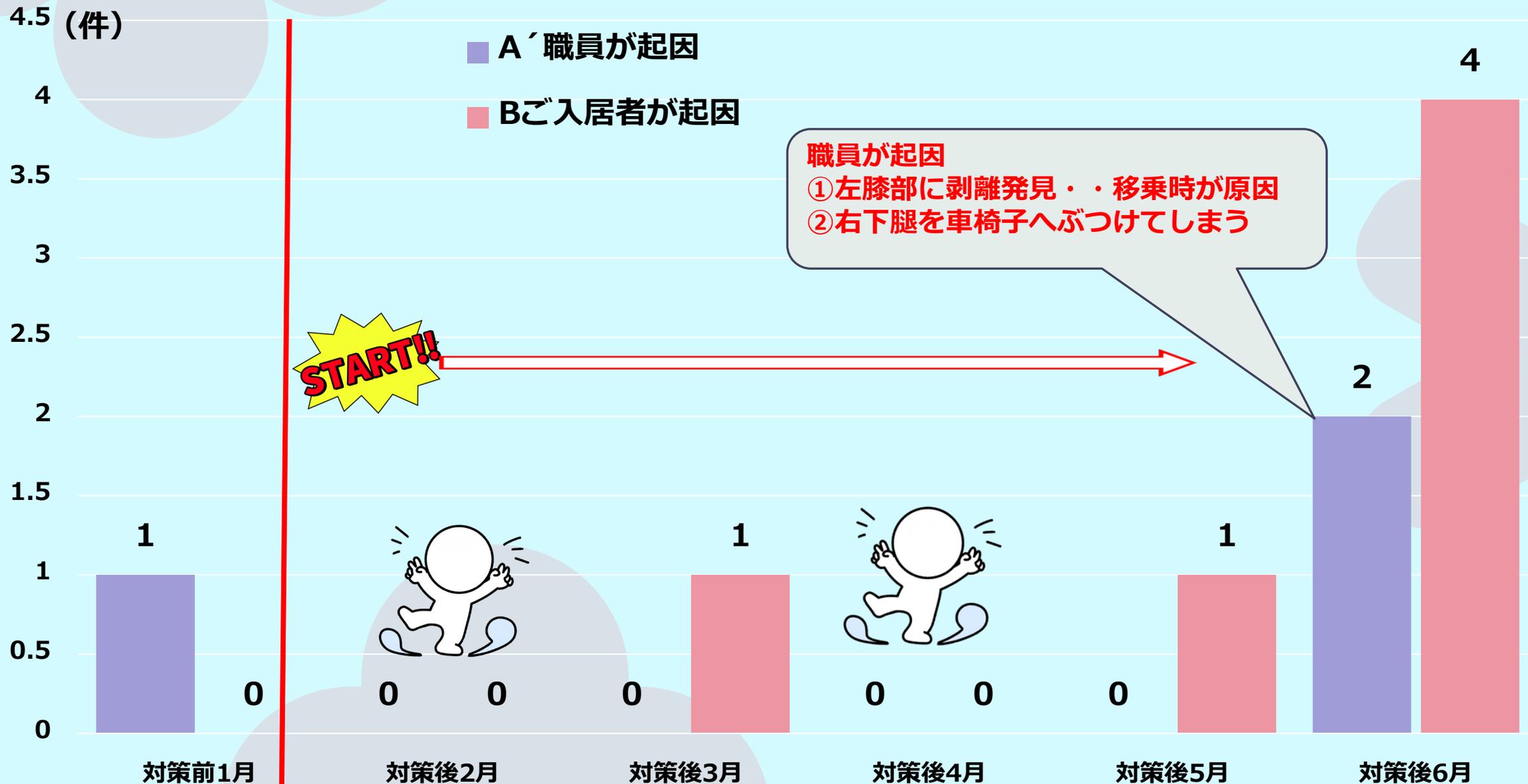


各フロアのタブレットでいつでも確認ができるようにした

【中間確認】

皮膚剥離件数

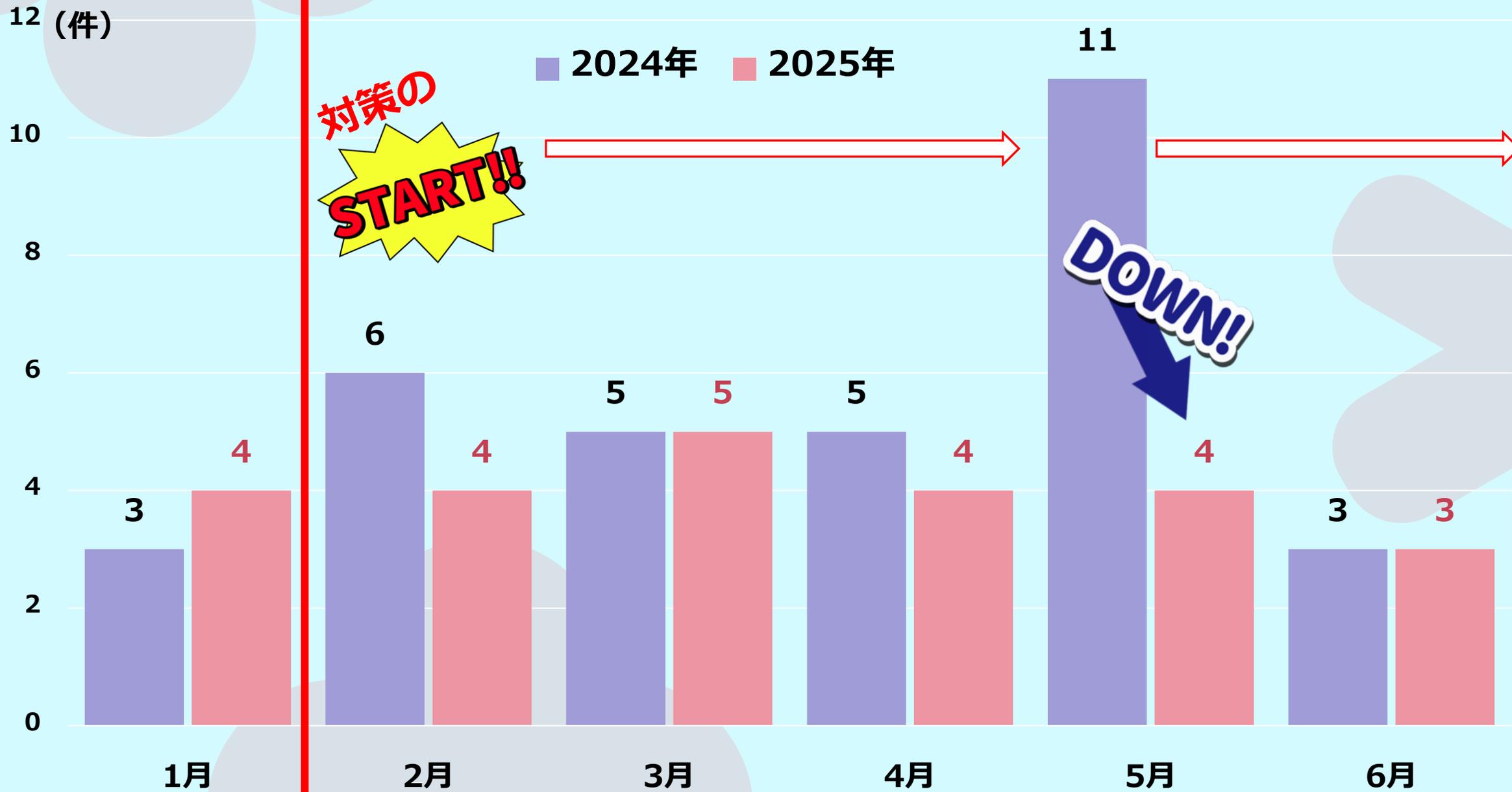
R7年7月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 



【中間確認】

内出血件数

R7年7月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *



【追加対策】

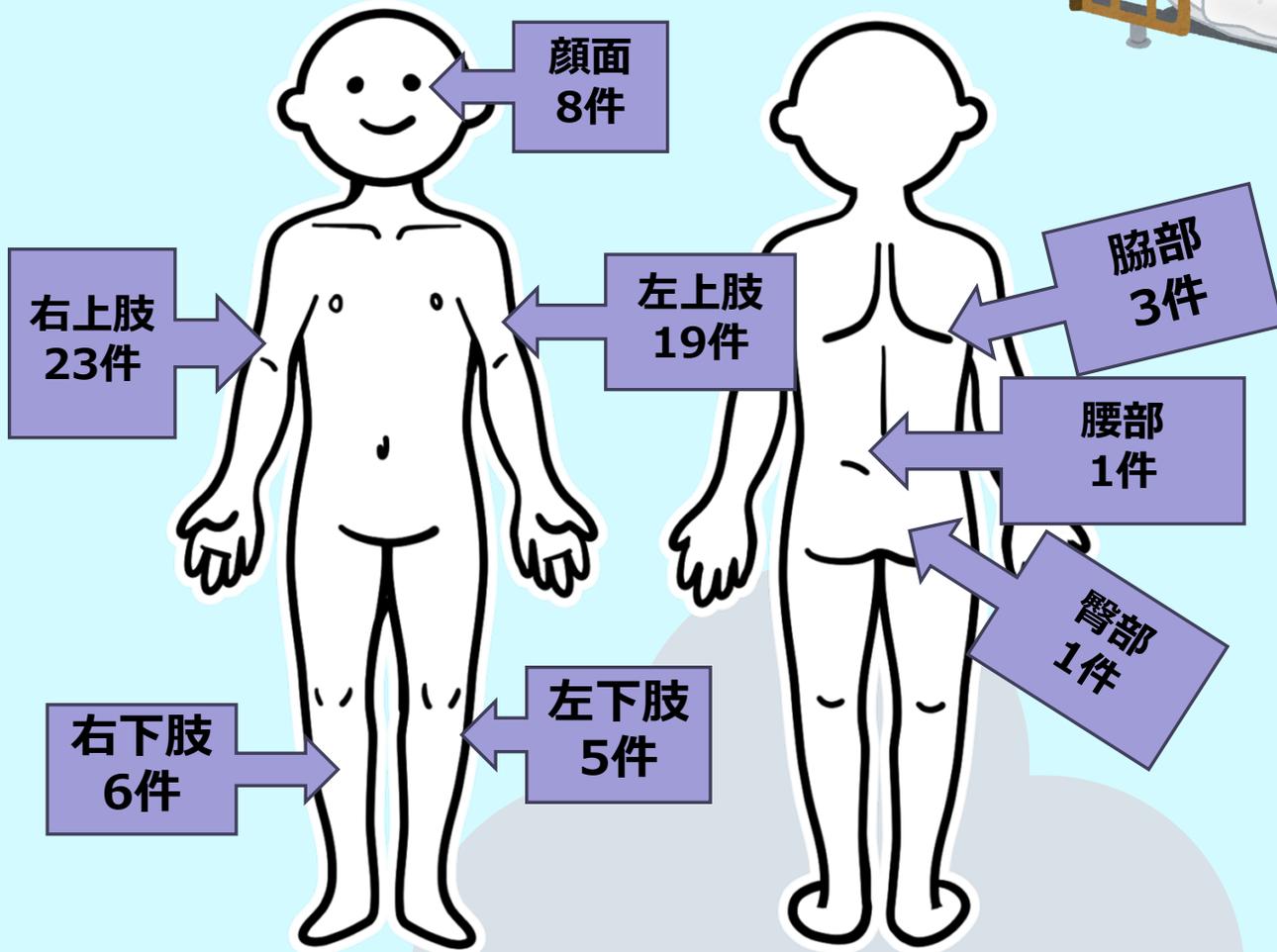
環境面の整備

過去1年間の内出血の部位を確認
内出血から皮膚剥離にならないように
追加対策を行った



R7年7月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *

ベッド柵に
当たって
内出血しない
ように
保護材を
巻いてから
職員手作りの
カバーを
取り付ける



【追加対策②】

啓蒙活動

R7年7月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

定期的に発行している新聞に掲載

8月は、皮膚トラブル撲滅月



身体を密着させて両肩甲骨を支え、前傾姿勢を促して浅座りになっていただく

足を引き過ぎないように注意

足底がついていることを確認する

フットサポートを上げ、レッグサポートを外す

アームサポート・サイドガードをはね上げる

高齢者の皮膚は脆弱です！

皮膚の乾燥で掻き壊し
入浴時に確認
スキンケアを忘れずに

『安全を育む絆！心の余裕が事故を防ぐ！』

令和7年度インシデント委員会

第4号 事故を減らそう新聞

令和7年3月発行
ライフケアカーデン湘南
インシデント委員会

2023年度・2024年度下期インシデント件数比較

(レベル0を除く)

月	2023年度下期	2024年度下期
10月	21	23
11月	19	23
12月	14	20
1月	15	14
2月	17	14
3月	-	-

○ → 皮膚トラブル撲滅月間

2023年度・2024年度インシデント内容下期との比較

(レベル0を除く)

内容	2023年度 (10月~2月)	2024年度
転倒	20	27
転落	9	11
皮膚剥離	22	11
内出血	31	23
薬	9	7
食事	1	3
骨折	1	3
その他	12	9

転倒の件数が35%増

内出血は25%減少し
皮膚剥離は50%減らす事ができた

事故を減らそう新聞

令和7年度 増刊号
インシデント委員会発行

～移乗の確認テスト実施結果～

6月に介護職員30名にペーパーテストを行いました。

問1 移動・移乗の際の基本的な考え方と介助について
問2 車椅子からベッドへの移乗について
問3 ベッドから車椅子への移乗について

残念ながらほとんどの人が基本を忘れてしまっているようでした！！

移乗確認テスト

項目	正解者	問1	問2	問3
人数	9	0	2	6
割合	30%	0%	6.6%	-

チャレンジ目標

安全	上期チャレンジ目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	結果
皮膚剥離 レベル1以上 1カ月0	×	×	×	×	×	×	×	
		1	3	3	5	7		

皮膚剥離を0にする気持ちは、皆さん同じでさまざまな意見や提案がありました。

移乗は、ゆっくり腕など直接皮膚を掴まない
皮膚の弱い方には、保護するアームカバーやレッグウォーマー等を使用
保湿剤などで皮膚の乾燥に注意する
基本動作をしっかりやる（時間がないからと省略しない）
介護者の爪を短くしておく
周りを確認、ぶつけないように注意を払う
衣類の着脱時に腕を掴んだり擦れたりしないようにする
ケアの統一
剥離しやすい箇所を常に意識し確認する

撲滅月間のポスター掲示



【効果の確認】

皮膚剥離件数

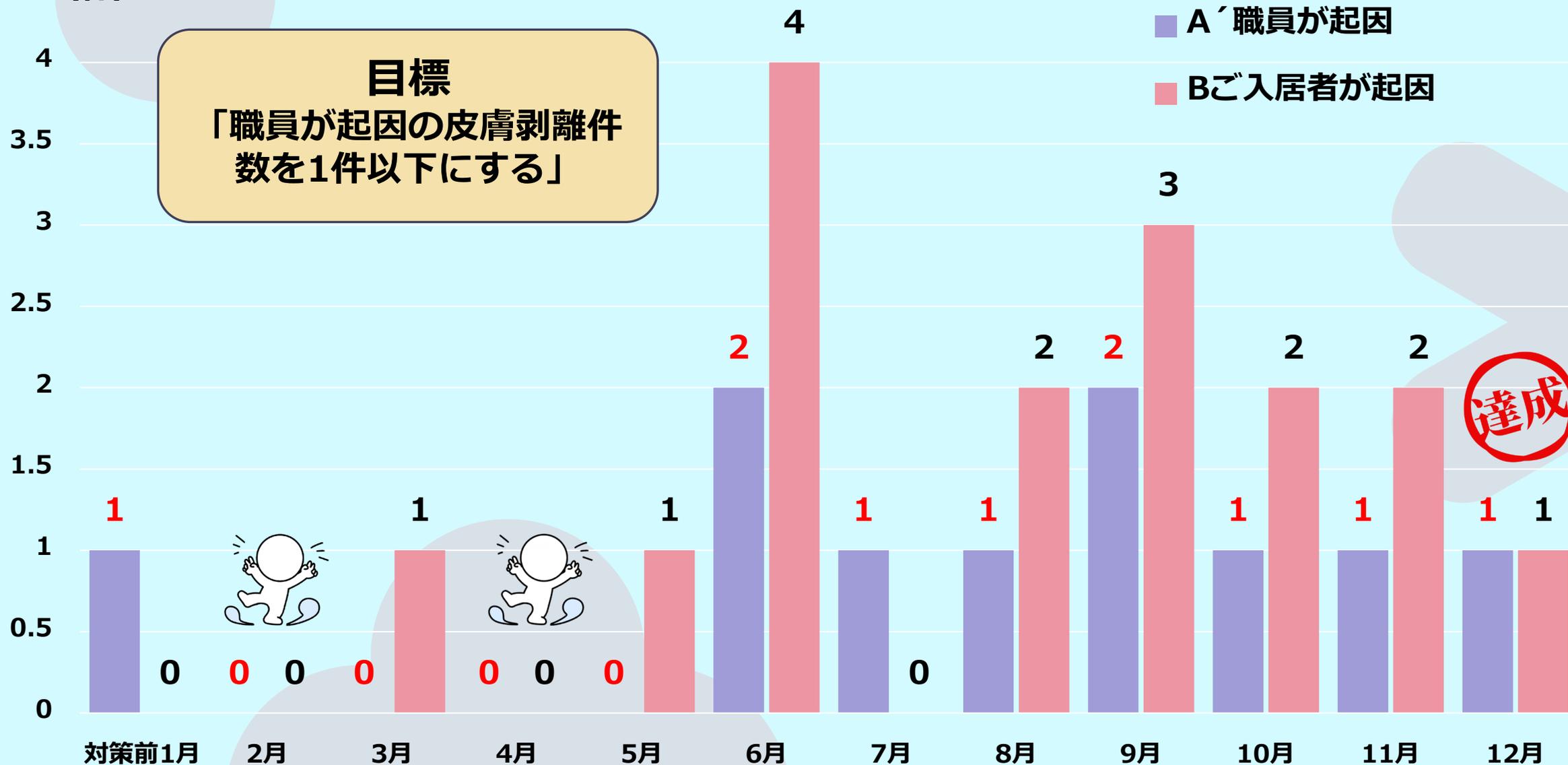
R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *

4.5 (件)

目標
「職員が起因の皮膚剥離件数を1件以下にする」

■ A'職員が起因

■ Bご入居者が起因

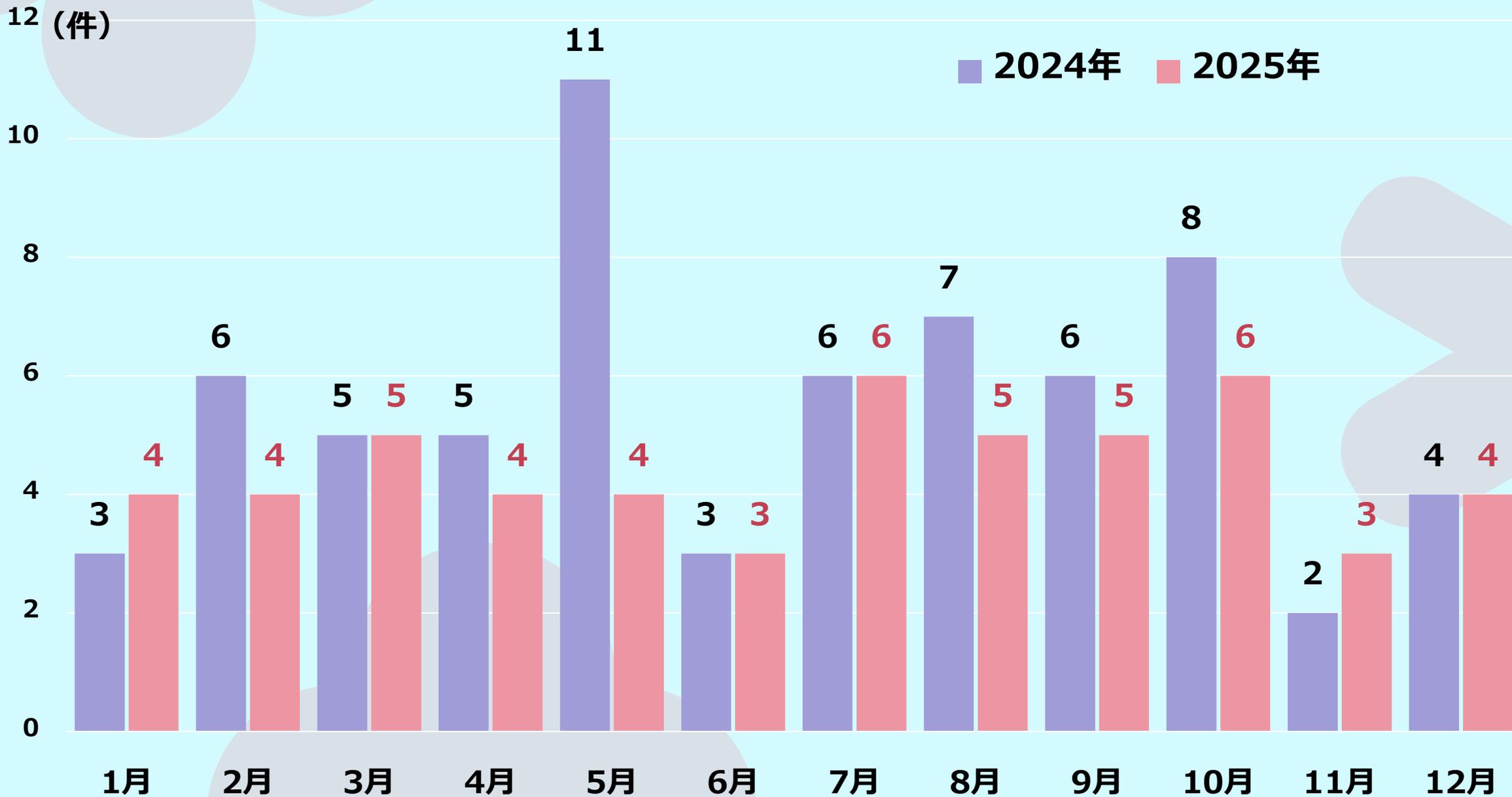


達成

【効果の確認】

内出血件数

R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *

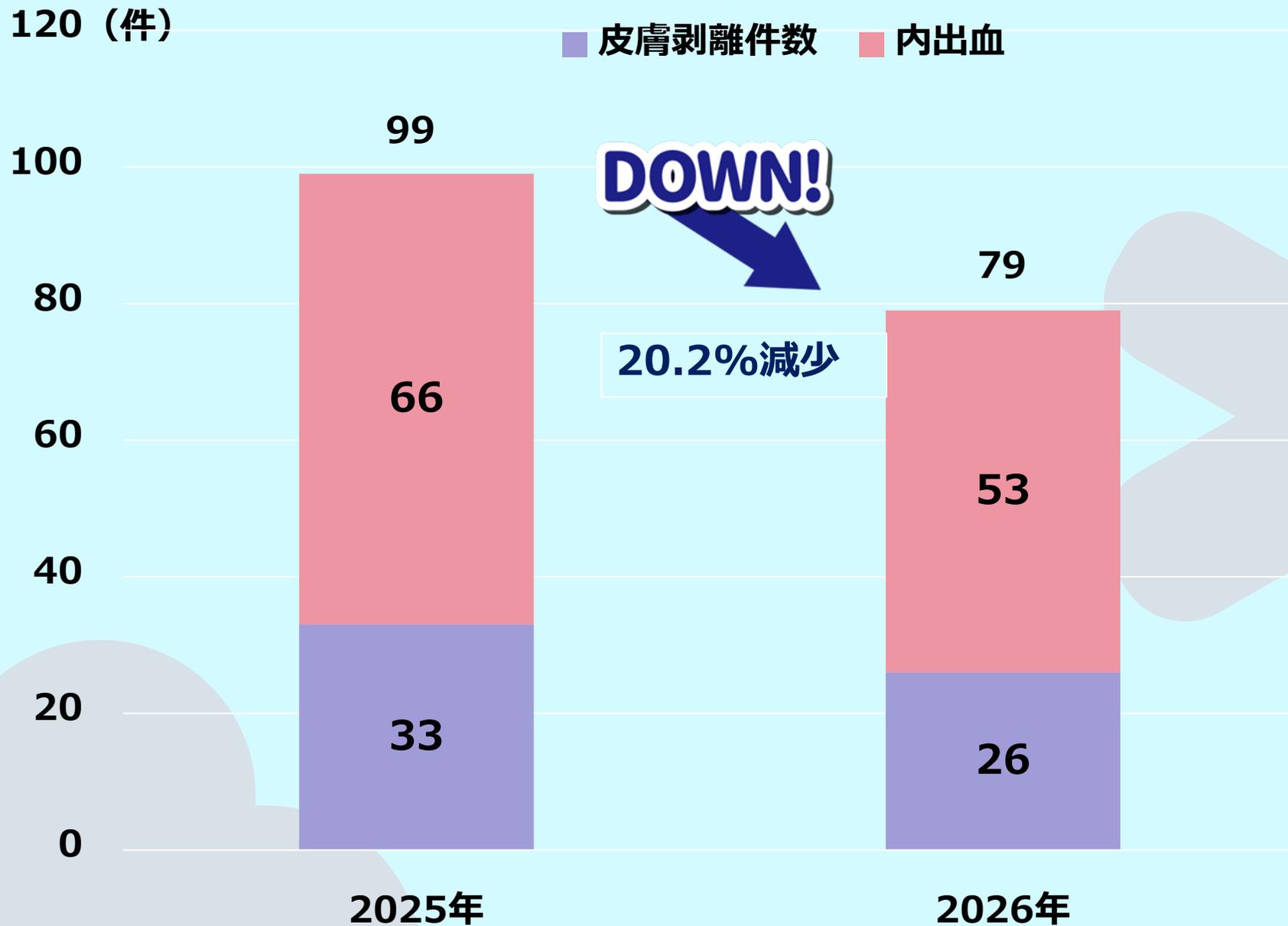


【結果】

皮膚トラブル件数

R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *

目標
「皮膚トラブルを
昨年度より20%
減少させる」





目標達成!



【波及効果】

R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *

『医療コストの削減』

皮膚剥離が減少する事で
治療や医療行為に
かかるコストが低減する



『ご入居者の健康状態の改善』

皮膚の健康が保たれる事で
その他の健康問題の発生リスクも低減



『スタッフの負担軽減』

皮膚トラブルが減ること
で介護スタッフの
負担が軽減され、業務が効率的になる



【無形効果】

R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 *



- スタッフのモチベーション向上**
 - TQMのプロセスに参加する事で自己の役割を重要視しモチベーションが上がる
- 「Our Team」の強化**
 - TQMの実施により職員間の連携が強化され役割と責任を持つことで効率的に進める事ができている
- ご入居者・ご家族の満足度向上**
 - 皮膚の健康が保たれる事で、ご入居者とそのご家族の満足度が向上する
- 施設の評判向上**
 - 質の高いケアを維持する事で施設全体の評判が向上し、新規入居者の増加に繋がる可能性がある
- 継続的な改善文化の醸成**
 - TQMが浸透することで常に改善を求める文化が施設内に根付き、全体的なサービス向上へと繋がる

【標準化と管理の定着】

R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	ご入居者の定期的な皮膚の状態報告を	問題の有無を早期に把握できるように	居室担当の看護師が	週に1回	施設内で	情報共有し意識を高めるようにする
	福祉用具を	皮膚トラブルをなくすために	ケアする職員全員が	日々	施設内で	携帯する
	環境衛生チェックシートを	日々のケアに役立てるために	ケアする職員全員が	日々	ケア時に	活用し適切なケアが出来るようにする
管理	マニュアルを	常に確認できるように	インシデント委員会が	委員会開催時(月1回)に	開催場所で	置き場所の確認と更新が必要かの検討を行う
教育	移乗・ポジショニングを含む安全対策の勉強会を	ケアする職員が忘れない為に	インシデント委員会が主催で	年に2回	開催場所で	実施する

【反省と今後の進め方】

R7年12月
担当：メンバー全員
作成：佐藤 

ステップ	良かった点	悪かった点	今後の進め方
1. テーマ選定	施設全体の目標に取り組む事ができた。		目標を十分に把握してテーマを選定にする。
2. 現状把握 目標設定	個別の状況を知ることができた。	過去3年間で洗い出すのが大変だった。	テーマを明確化し現状を把握するようにする。
3. 要因の解析	疑問としていた事を解析し、原因について話し合うことで、発見や見落としがある事が分かった。	勤務の都合で会議に全員が集まれる日が少なかった。	個別ケアに重点を置き個人に見合ったケアを随時検討する。
4. 対策・立案・実施	TQMメンバーが意欲的に取り組む事で実行・実践に繋げる事ができた。	メンバーが事情で少なくなってしまう実施までに時間を要した。	今後も安全対策を継続的に検討・実施。
5. 効果の確認	中間確認で目標に近づける事が出来た。再度対策の見直しと更なる上を目指す事で全体的にケアの意識を上げる事ができた。		職員の意識が変わったので今後も継続。
6. 標準化と 管理の定着	委員会が本来あるべき役割を考える事に繋がった。		インシデント委員会（月1回）で定期的に安全対策の見直しを行いPDCAサイクルを廻す。

つや
つや
お肌

ご清聴
ありがとう
ございました

